

教職課程における自己点検・評価結果報告書（令和5年度実施）

令和6年6月

横浜国立大学教育推進機構教職課程部門

教職課程部会

1. 自己点検・評価結果報告書（令和5年度実施）について

令和3年8月に教育職員免許法施行規則が改正され、教職課程の自己点検・評価の実施が義務付けられた。そこで、令和4年度に高大接続・全学教育推進センター教職課程部門教職課程部会において「教職課程における自己点検・評価の実施方針（以下、実施方針）」を定めた。実施方針において、教職課程を置く学部・研究科・学府ごとに自己点検・評価を実施し、教職課程部会はその結果報告を取りまとめることとしている。当報告書は教職課程を置く学部・研究科・学府より令和5年度の実施に係る「自己点検・評価の取組結果報告書」等により報告された内容を確認し、取りまとめたものである。

なお、教職課程部門教職課程部会は令和6年4月から高大接続・全学教育推進センターの業務を継承した、教育推進機構の中に置かれている。

2. 自己点検・評価の方法

実施方針に基づき、教職課程を置く以下の学部・研究科・学府において自己点検・評価を行った。

【教職課程を置く学部・研究科・学府】

教育学部、理工学部、都市科学部、教育学研究科、理工学府、環境情報学府

3. 令和5年度の自己点検・評価の総括

令和5年度は、初めて自己点検・評価を実施した。具体的な事項については、以下の4～5のとおりである。今後も実施方針等に則り自己点検・評価を行い、PDCA サイクルを機能させることで、教職課程の質を維持し向上することが期待される。

4. 自己点検・評価について

（別表）評価の観点と分析項目に基づき自己点検・評価を行った。実施に際しては、点検項目等が明示された「教職課程に係る自己点検・評価シート」により点検している。自己点検・評価の結果確認された事項や主な改善等は以下のとおりである。

- ・教育学部において、授業アンケートの回答率が低くなっているため、FDセミナーへの参加や授業時間内にアンケートを実施することについて周知を行っていく。
- ・理工学部において、成績分布の結果について「秀」や「不可」が多い等の目立った傾向は

なく、また、授業アンケートの集計結果について授業を通じて力が身に付いたかを確認することができた。教職課程における教員の配置については、教職課程部会や都市科学部と連携し、教育学部の協力を得て共通開設とすることで対応した。

・都市科学部において、教職取得を主目的としない学部であり、教職を志望する学生が少ないながらも、カリキュラム自体は教職取得を目的としている学部と遜色のない、実務経験のある教員を招くなどした質の高いカリキュラムが用意されている。シラバスの記載や一部授業方針を工夫する必要がある、定期的なシラバスの見直しを徹底すると同時に、科目によっては教職課程を目指さない学生も参加するものもあるため、教職志望学生・非志望学生どちらにとっても分かりやすい授業計画を立てるように対応していく。

・理工学部において、少数ではあるが、毎年度一定数の免許取得者を出せている。今後、教員養成の目標を含め、教職課程の在り方について確認していく。

5. 関係者及び外部からの教職課程に関する意見

関係者（学生、卒業（修了）生、卒業（修了）生の就職先等）と、第三者評価、外部評価及び学外者の意見を聴取し改善に繋げている。また、本学は学部及び大学院に教育活動等に関する検証及び評価の実施を要請し、その結果を教育の質的向上及び組織の活性化等に資するため、学部長及び研究科長等の諮問機関として学外有識者を構成員に含めた運営諮問会議を置いている。

主な意見等は以下のとおりである。

（関係者（学生、卒業（修了）生、卒業（修了）生の就職先等）からの意見聴取）

・教育学部において、在学生（教育実習Ⅰ（小学校）履修者）に対して実習・事前指導アンケートを実施し、事前指導の効果や教育実習後の教員志望に関する気持ちの変化等を確認し次年度の検討に活用した。教員就職をしなかった学生に対して、卒業時に一般就職を選んだ時期やきっかけ、大学生活や大学での学習との関連、教員という職業について等ヒアリング調査を実施し、学生の教職に対する意識の変化を分析した結果を教員就職率向上対策の検討に活用した。

・理工学部において、1・2年生向け教職課程説明会においてアンケートを実施し、学生からの意見を収集した。その意見を踏まえて、履修案内の改善等に繋げる。

・都市科学部において、教職関連の科目は「他者と関係性を築く」という面において、とてもためになる部分が多くあった、教職課程でなければ経験できないことを経験できてよかったという意見があった。また、1年次には教職に必要な情報を見つけることが困難な時があったため、履修方法に慣れていない学生にも分かりやすい記載を求める声があった。

・教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）において、修了生を対象にした授業懇談会を行っており、授業や実習、研究活動などに関する意見を聴取し、検討を行った。修了時及び修了5年目（ストレートマスターは1年目も）を対象としたアンケートを実施し、検討を

行った。

- ・理工学府において、修了生にアンケート調査を実施した。
- ・環境情報学府において、博士課程前期の学生から教職課程に関する意見聴取を行ったが、特段の意見はなかった。

(第三者評価、外部評価及び学外者の意見)

- ・教育学部において、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、横須賀市教育委員会と横浜国立大学教育学部で連携協議会を令和5年8月に開催し、意見交換を実施した。
- ・理工学部運営諮問会議において、理工学部としての部局戦略及び教育・入試における取り組みについて説明したが、教職課程に対する意見はなかった。
- ・都市科学部において、教職取得を主目的としない学部であり、教職を志望する学生が少ないことについては、現状のままでよい、もしくは増えた方が良いが特に強制するものではないという意見があった。
- ・教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）において、教職大学院諮問会議を置き、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会及び連携協力校から学校現場の要望・評価を取り入れる体制を整えている。令和5年度は、令和5年8月及び令和6年2月において会を開催し、意見交換を実施した。
- ・理工学府運営諮問会議において、特段の意見はなかった。
- ・環境情報研究院・学府運営諮問会議において、外部委員からの教職課程に関する特段の意見等はなかった。

(別表) 評価の観点と分析項目

評価の観点	分析項目
教育理念・ 学修目標	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況
	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス
	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の見直しの状況
授業科目・ 教育課程の 編成実施	複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況
	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況
	教育課程の体系性
	I C Tの活用指導力など、各科目を横断する重要な事項についての教育課程の体系性
	いわゆるキャップ制の設定状況

	教育課程の充実・見直しの状況
	個々の授業科目の到達目標の設定状況
	シラバスの作成状況
	アクティブ・ラーニングやICTの活用など新たな手法の導入状況
	個々の授業科目の見直しの状況
	教職実践演習及び教育実習等の実施状況
学修成果の 把握・可視 化	成績評価に関する全学的な基準の策定・公表の状況
	成績評価に関する共通理解の構築
	教員の養成の目標の達成状況(学修成果)を明らかにするための情報の設定 及び達成状況
	成績評価の状況
教職員組織	教員の配置の状況
	教員の業績等
	職員の配置状況
	FD・SDの実施状況
	授業評価アンケートの実施状況
情報公表	学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第172条の2のう ち関連部分、教育職員免許法施行規則第22条の6に定められた情報 公表の状況
	学修成果に関する情報公表の状況
	教職課程の自己点検・評価に関する情報公表の状況
教職指導 (学生の受 け入れ・学 生支援)	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況
	学生に対する履修指導の実施状況
	学生に対する進路指導の実施状況
関係機関等 との連携	教育委員会や各学校法人との連携・交流等の状況
	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況
	学外の多様な人材の活用状況